

— まちづくり —

“うめきた2期区域”のまちづくりについて

1. はじめに

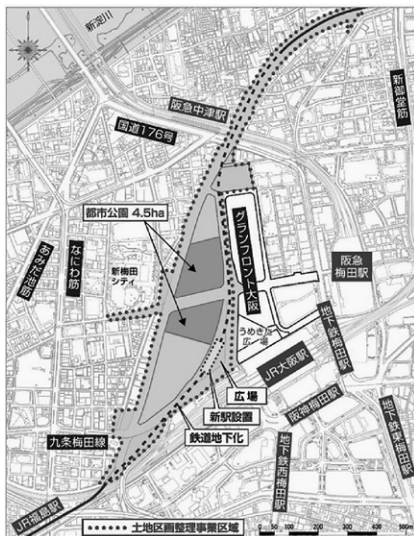
JR大阪駅北側で進められている「うめきたプロジェクト」は、関西最後の一等地と言われる旧梅田貨物駅跡地約24ヘクタールで行われている大規模都市再生プロジェクトで、関西の発展を牽引するリーディングプロジェクトに位置づけられている。

先行開発区域では、2013年春に民間事業者による大規模複合施設「グランフロント大阪」が開業し、その来館者延数は開業5年を前に2億5千万人を突破するなど、大阪の新しいビジネス拠点、交流拠点として大いに賑わいを見せている。ここでは、進行中のうめきた2期区域のまちづくりについて、URの取組みと進捗状況について紹介する。

2. うめきた2期区域での基盤整備

URは、先行開発区域の約7haの土地区画整理事業に続き、2期区域においても、2015年11月から土地区画整理事業に着手し道路等の基盤整備を進めている。今後は「みどり」の中心をなす都市公園の整備も進めていく予定である。

2期区域内には大阪市内から関西国際空港へのアクセスの一部を形成するJR東海道線支線が通っており、今回、この地上線路を地下化し、併せて地区中央部に新駅を設置する事業も進められている。



うめきた2期地区基盤整備事業概要

3. まちづくり方針の実現に向けて

2期区域まちづくり方針実現のための民間誘導に向けて、URは従前地を取得し、土地所有者として2017年12月から開発事業者の公募を行った。開発条件として、民間事業者を適切に誘導するため、大阪市をはじめとする関係機関と協議し、民間宅地だけでなく宅地周辺の歩道や都市公園及び西口広場を含めた一体的なまちづくりを行うこととした。

また、まちづくり方針の実現のため最低限必要となる事項を必須条件として設定するとともに、公園区域について一定の条件のもと民間提案により変更可能とするなどの工夫を行った。

こうして2018年7月に民間事業者のグループを開発事業者として決定したことにより、まちの全体像が概ね確定し、「うめきた2期区域」のまちづくりがいよいよ本格的に動き出すことになった。



うめきた2期区域の現況（2018.10撮影）

現在、2023年春の開業に向けて東海道線支線地下化工事及び新駅設置工事が地区内で全面展開されており、今後は、民間事業者によるまちづくりも始まり、2024年夏には、都市公園の一部と民間事業者の施設の一部が開業する予定となっている。関西の更なる発展に向けて、国、地元自治体、経済界及び民間事業者等とURは一体となって新しいまちづくりに取り組んでいくので「うめきた2期区域」のまちづくりにご期待いただきたい。

（独立行政法人都市再生機構 都市再生本部
事業管理第2課 吉田 英雅）